

公開講演会 国内奨学応募生のお話を聞く会 ②

生活習慣病の早期診断と予防のための研究 ～AGEs・2SCの観点から～

日 時：2021年12月8日（水）14:00-16:00

開催形式：Zoom（100名） 事前申込制

講 師：勝田奈那 さん

2014-2018：東海大学農学部バイオサイエンス学科

2018-2020：東海大学大学院 農学研究科

2020-在学中：東海大学大学院 生物科学研究科

福島県出身。学部3年次から現在に至るまで食品生体調節学研究室に在籍し、AGEs、2SC研究の最前線を走る永井竜児先生のご指導のもと、日々研究を行っている。

申込方法：Google フォーム <https://forms.gle/RqnnCCHMgPvrwBiS7>

または、Email jauwkanagawashibu@yahoo.co.jp

(一社)大学女性協会神奈川支部

締 切：12月1日（水）



講演概要

私たちのからだではグルコースなどの糖質をエネルギーとして利用していますが、その糖質とタンパク質が非酵素的に結合することで終末糖化産物（AGEs；エージーイーと読みます）が生成されます。本反応は1912年に発見されて以来「メイラード反応」と呼ばれ、主に食品科学分野での研究が進められてきました。近年の研究では、AGEsがヒトのからだに蓄積し、糖尿病合併症や動脈硬化、骨粗鬆症などの疾患の発症や進行に関与する可能性が示されています。また、本反応は「糖化」とも呼ばれ、肌の老化にも関与するとして雑誌などのメディアで特集され、注目が集まっております。

2SC（トゥーエスシー）は、ミトコンドリアという細胞内の発電機で糖からエネルギーを産生する時に生成されるフマル酸と、アミノ酸の一種のシステインが結合することで生成されます。そのためこの構造を測定するとからだの発電機の働きを調べることが可能となります。2SCは糖尿病に関与することも報告されていますが、発見されたばかりのため、研究対象としている人は世界でもわずかしきません。

本講演ではAGEs、2SCの蓄積と病態との関連、その測定方法や蓄積を抑制する機能性成分などについてご紹介いたします。

奮ってご参加ください



終了後のアンケートにご協力ください。 <https://forms.gle/9dKy6BYY71cxoWxB9>